

- 東浦町では、森林環境譲与税を活用して、国産材を活用した木製品を導入していく方針。
- 令和4年度においては、国産材を用いた木製品の設置(公園・学校)及び森林整備を行った。
- 令和5年度においても、引き続き公共施設の木製品の導入を推進する。

□ 事業内容

木製品の購入

- ・既存の公共施設が劣化したため、国産材を活用した木製ベンチ(公園)と木製書架等(学校)を設置。

森林整備

- ・飛山池周辺の散策路修繕(通路の柵、枠設置)等を実施。

【事業費】6,287千円(うち譲与税5,272千円)

【実績】

木製品の購入

- ・ベンチ5基(木材使用量0.09383m³)
- ・窓下直立書架4台(木材使用量1.7754 m³)
- ・教室用背面ロッカー9台(木材使用量:58.792m³)
- ・教卓1台(木材使用量:74.77m³)
- ・角イス18脚、丸イス40脚(木材使用量:74.77m³)

森林整備

- ・飛山池周辺の通路の柵、枠設置(木材使用量:0.7275m³)等

□ 取組の背景

木製品の購入

- ・子どもの頃から木製品などを通して木を身近に感じることで、人と木や森のかかわりを主体的に考えられる豊かな心を育むことを目的とする。

森林整備

- ・散策路の柵、枠が劣化しており、散策者の安全確保を目的とする。

(木製品の購入 木製窓下直立書架)



(森林整備 飛山池周辺の散策路)



□ 工夫・留意した点

木製品の購入

- ・国産材の木材を使用することで、暖かみを感じられるようにした。
- ・木製品を利用してもらうことにより、木材の魅力への気づきを促す。
- ・公共施設において、木材を利用することにより、木材利用の普及啓発、需要拡大に努める。

森林整備

- ・木製の柵、枠を設置し、散策環境を維持することに努めた。

□ 取組の効果

木製品の購入

- ・児童の木材に対する親しみや木の文化への理解を深めることにつながったと考えられる。

森林整備

- ・森林整備することで散策路の景観の向上や散策者の安全確保に貢献したと考えられる。

◇ 基礎データ

①令和4年度譲与額	5,272千円
②私有林人工林面積(※1)	27ha
③林野率(※1)	5.1%
④人口(※2)	49,596人
⑤林業就業者数(※2)	0人

※1:「2020農林業センサス」より

※2:「R2国勢調査」より